

## 校長室だより～和光高校今昔 第46号 H27.3.20

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

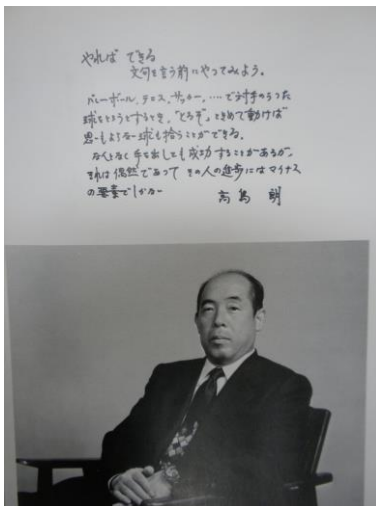
### 卒業アルバム

きのう新たにもう1冊が加わり、校長室に置かれている卒業アルバムは41冊となった。

和光高校第1期生は、昭和50年3月に卒業されている。まったくの偶然だが、同年荒井由実の名曲「卒業写真」が発表された。現在58歳になる先輩方は、その歌詞にあるように高校時代に思いを馳せながらアルバムを開き、何もないところから自分たちで創りあげた高校生活を懐かしんでいらっしやったことと想像する。ページをめくると冒頭に初代校長であられる高島朗先生の巻頭言が目に入る。



1期生アルバム表紙



やればできる 文句を言う前にやってみよう。

バレーボール、テニス、サッカー、…で相手のうった球をとろうとするとき、「どうぞ」ときめて動けば思いもよらない球を拾うことができる。

なんとなく手を出しても成功することがあるが、それは偶然であってその人の進歩にはマイナスの要素ではない

高島 朗

先生方と手を携え、新設校で0からスタートし手塩にかけ

育ててきた1期生への餞（はなむけ）の言葉である。高島校長先生の万感の思いが込められた温かくしかも力強い激励に聞こえる。そのときの職員集合写真が右である。真新しい校舎を背景に誇らしげな顔で並ぶ凛々しい諸先輩方がまぶしい。



卒業アルバムは同時に貴重な資料ともなる。下の集合写真は3年6組吉田クラス、おそらく初夏のころの撮影と思われる。教室棟屋上がその場所だがこれには深い理由がある。教室棟落成は、昭和49年3月31日。したがって1期生にとり待ち望んだこの地はわずか数か月前に完成したばかり。入学以来1年次はプレハブ校舎、2年生から一応新校舎（ただし3階まで）、そして3年次の1年間だけがようやく鉄筋の学び舎を教室とすることができたのだ。

まるで飛行場のような背景は屋上から望む荒川の沃野。現在ではさいたま新都心の高層ビルや、幸魂大橋が見える場所である。水道道路の交通量はおそらく今の1割以下、舗装もされていない田舎道であった。



こちらは2期生2年3組のクラスページである。この学年はどのクラスも趣向を凝らし、楽しい学校生活が目につくようだが、このクラスの作品は秀逸である。プロのイラストレータ顔負けの絵とウィットに富むコメントが素晴らしい。また「寄せ書き」が全クラス収められているが、隣のクラスの「オバラダヌキ」の似顔絵もそっくりで思わず笑ってしまう。また、1組担任の藤井昌子先生の「2度目の青春をみんなと生きた」という言葉が印象的である。



ようやくクラス写真がカラーになったのは5期生、1979年3月のアルバムから。ここでも1組担任藤本裕之先生が主役を演じておられる。他校に魁て綺麗なアルバムが完成した。表紙は和光高校の空中写真。資料としての価値も高い。こだわりがみてとれる。





歳を重ねても色褪せない青春の1ページ…  
和光高校の卒業アルバムには困難を乗り越えてきた成就感が詰まっている。

頑張れ和高41期生、加来学年174名の健闘を祈念して

